

## 報告

## 日本リハビリテーション工学協会の国際連携の現状

中部学院大学 井村 保

## 1. はじめに

日本リハビリテーション工学協会 (RESJA) は、リハビリテーションと支援工学・技術の分野の国際ネットワークの絆を一層深めるべく、欧州リハビリテーション工学協会 (AAATE)、豪州リハビリテーション工学協会 (ARATA) および北米リハビリテーション工学協会 (RESNA) との4団体間にて、姉妹組織協定 (通称「徳島アグリーメント」) を2000年8月26日に締結している<sup>1)</sup>。

それ以降、国際連携や国際協力活動として目立った動きは見られなかったが、近年、国際連携が活発化してきた。ここにその現状を報告する。

## 2. 国際連携の拡大

韓国リハビリテーション工学協会 (RESKO) からの、徳島アグリーメントへの加入意向を受けて検討を開始した。そして、同じ内容の姉妹組織協定 (MoA) を RESJA を含むアジア地域で取り交わし、アジアとして徳島アグリーメントの構成団体に働きかけることを最初のステージとした。

まずは RESJA と RESKO の間において2011年11月4日に、RESKO Technical Conference (韓国) において、RESJA を代表して相良理事長 (当時) が MoA に署名した<sup>2)</sup>。(当日は、大鍋国際担当理事 (当時) が代理で署名済みの MoA を持参した。) その後、台湾リハビリテーション工学会 (TREATS) も加わっての連携協議がはじまった。また、非英語圏である東アジアでは国際会議を各組織で維持し続けることは困難であることから、持ち回り開催も含めた連携も検討し始めた。これらのことは、Meeting of International Conference Organizers (2013年3

月、アメリカ・CSUN 開催時に実施) において、理事に代わって監事 (当時) の筆者が報告している。

## 3. CREATE Asia

アジア全域に目を向けると、START Centre (シンガポール) と NECTEC (タイ) の協力による国際会議となる i-CREATE 2007 Conference を2007年4月に開催している。この時のメンバーは、同年8月のリハ工学カンファレンス (名古屋) の国際交流セッションでも報告している。

このときから、RESJA とは友好関係にあり、i-CREATE 2013 (2013年8月、韓国) では、Asia Alliance Forum が行われ、相良会長 (当時) が招待講演をしている<sup>3)</sup>。そして、幾度にもわたる意見交換を重ね、オセアニア地域も加わり、Coalition Rehabilitation Engineering & Assistive Technology of Asia (CREATE Asia) を結成することとなった<sup>4)</sup>。なお、この連合には各国・地域の学協会だけでなく、研究機関や大学等としての加盟もあり、日本からは、RESJA に加えて兵庫県立福祉のまちづくり研究所 (HiAT) も名を連ねている (図1)。

そして、2015年8月13日、i-CREATE 2015 (シンガポール) において、その開催の理解者でもあるタイ王国マハ・チャクリ・シリントン王女のご臨席の下、設立団体となる13団体の代表者 (3団体は都合によ

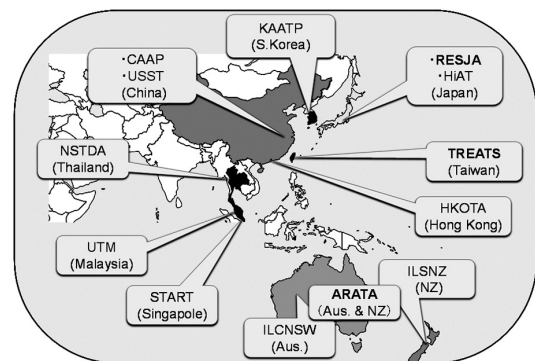


図1 CREATE ASIA 設立団体

り欠席) が調印式(「クリエイトアジアアグリーメント」の締結)を行った(図2)。



図2 CREATE Asia 調印式  
RESJA 代表 相良副会長(当時)(右から3番目)  
タイ王国 マハ・チャクリ・シリントン王女(中央)ら

また、この時の総会において、i-CREATEは、CREATE Asiaが持ち回りで開催する国際会議として引き継ぐものとして承認され、2016年はタイ、2017年は日本(神戸、HiAT 主管)で開催される。

#### 4. 東アジア MoA

RESJA-RESKOのMoA締結から4年後には、TREATSを加えた東アジア3か国・地域協定に改めるべく、2015年11月5日、RESKO Technical Conference(韓国)において、繁成会長らが参加して署名を行った(図3)。また、翌日には、基調報告としてRESJAの歴史と活動、そして国際連携の変遷などの状況を報告した。



図3 東アジア MoA 調印式

なお、現段階においてRESKOは、前述のCREATE Asiaには加盟していないため、RESKOに対して、CREATE Asiaへの加盟を促していきたい。

#### 5. 徳島アグリーメントの発展

WHOが主催するGATE Research Working Group meeting(2015年9月11日、ハンガリー・AAATE開

催時に実施)において、RESNAは国連やWHOへの影響力をもつための国際連携を推進することを提案している。RESJAからは(役員改選直後でもあり)理事に代わって井上前監事が参加した。ここでは、徳島アグリーメントを発展させThe International Alliance of Assistive Technology Societies / Associationsを作ることに、運営委員会のメンバーとして、RESKOとTREATSを加えた6団体とすることが合意されている。

#### 6. 今後の展望

ここまで述べた、国際連携をまとめると図4のようになる。これからは、連携を結ぶことだけでなく、国際社会の一員としての責務を果たす具体的な活動も求められてくるといえる<sup>5)</sup>。

RESJAとしては、全体を見据えながら、約30年の経験を礎として、関係各国・団体との連絡を密にとり、その役割を果たしていきたい。

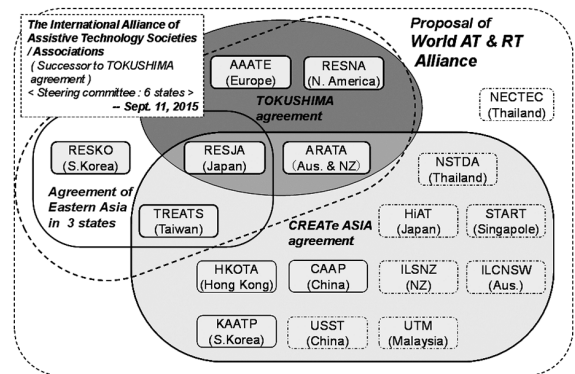


図4 国際連携締結相関図

#### 【参考文献】

- 1) 末田統:世界に羽ばたく日本リハビリテーション工学協会へ、リハビリテーションエンジニアリング、15(4)、2-5、2000
- 2) 大鍋寿一:日韓リハビリテーション工学協会協力協定締結報告・リハビリテーションエンジニアリング、27(2)、105-108、2012
- 3) 松原加代子:i-CREATE! 2013 & SENDEX2013、リハビリテーションエンジニアリング、29(1)、52-54、2014
- 4) 相良二郎:30巻記念号発行にあたり一協会の国際関係一)、リハビリテーションエンジニアリング、30(1)、9-10、2015
- 5) 大鍋寿一:リハ工学のグローバル・チャレンジ、第29回リハ工学カンファレンス講演論文集、CD、2014